

# 第 26 回 日本動物児童文学賞審査委員会の会議概要

I 日 時 平成 26 年 7 月 28 日 (月) 13 : 30 ~ 16 : 30

II 場 所 日本獣医師会会議室

## III 出席者

### 【委員】

動物愛護・福祉部会長

木村 芳之 日本獣医師会理事 (動物福祉・愛護部会長)

動物福祉・愛護関係省庁及び教育関係省庁関係者

田邊 仁 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室長

清原 洋一 文部科学省初等中等教育局主任視学官

動物福祉・愛護関係学識経験者

会田 保彦 日本動物愛護協会評議員

齋藤 勝 日本動物福祉協会副理事長

椎野 雅博 日本愛玩動物協会副会長

須田 沖夫 家庭動物愛護協会会長

【日本獣医師会】 矢ヶ崎 忠夫 (専務理事)

## IV 議 事

- 1 委員長の選任 (協議)
- 2 第 2 次審査に至るまでの審査経過等 (説明)
- 3 審査 (協議)

## V 会議概要

開会に当たり、矢ヶ崎専務理事から、大要以下の挨拶があった。

本事業は日本動物保護管理協会が平成元年から実施してきて、日本獣医師会が吸収合併後も引き続き継続しており、今回で第 26 回目を迎えた。上位 3 作品を掲載する受賞作品集は、地方獣医師会を通じて、小学校や図書館等に配布している。昨年度の大賞受賞作品「超救助犬リープ」は、学芸みらい社から出版化された。審査委員各位におかれては、ご多忙中、1 作品あたり原稿用紙約 50 頁前後の分量を事前に読み、コメントを提出の上、本日の審査委員会にご出席いただき感謝している。本日は、大賞、優秀賞、奨励賞の 3 種類の受賞作品を協議の上、決定いただきたい。

その後、事務局から委員紹介、日本獣医師会組織体系図、部会運営規程、日本動物児童文学賞事業実施要領、第 26 回日本動物児童文学賞作品募集要項等

が説明された。

## **1 委員長の選任**

委員の互選により、木村芳之委員が委員長に選任された。

## **2 第2次審査に至るまでの審査経過等（説明）**

事務局から、平成26年1月1日から4月20日まで募集したところ、106作品の応募があり、募集要項の基準を満たさない2作品を除いた、104作品を対象に、第1次審査を現代日本少年文学の会主宰の池川禎昭氏に依頼し、第2次審査候補作品として15作品が選出された旨説明された。

## **3 審査（協議）**

各審査委員による審査候補作品の事前審査結果をもとに、協議の結果、別紙のとおり大賞1作品、優秀賞2作品、奨励賞5作品が選定された。

## **4 まとめ**

- (1) 別紙入賞者のうち、大賞、優秀賞受賞者の表彰は、平成26年9月23日（火・祝）東京国立博物館平成館講堂にて開催される平成26年度動物愛護週間中央行事屋内行事の会場において行う。
- (2) 大賞及び優秀賞の3作品は、「第26回日本動物児童文学賞入賞作品集」として製本のうえ、都道府県等の関係機関、小学校等の教育機関及び図書館等に配布される。

【別紙】

## 第26回日本動物児童文学賞入賞作品

### 【日本動物児童文学大賞】

「よっちゃん、ごはんだよ」

高森 美由紀（青森県）

＜受賞理由＞

母と死別し、複雑な家庭環境の主人公が、いつも吠えられ、怖かった隣の家の犬の世話をすることになり、試行錯誤しながらも、やがて身近な存在になってゆく。主人公は、犬と心を通わせる体験を介して、それまで苦手としていた周囲の人々とのコミュニケーションがとれるようになる。人と動物だけでなく、人と人との関係も描いた物語となっており、ユーモアも交えながら、心の動きを描写した優れた作品である。

### 【日本動物児童文学優秀賞】

「ウルフがおしえてくれたこと」

松田 好子（東京都）

＜受賞理由＞

学校嫌いだった主人公が、狼に似た犬のウルフとの交流を通じて獣医学生になるまでを描いているが、動物を飼育する際の覚悟や、飼い主としての責任を子供達にもわかりやすい文章で表現しており、動物と子供達の間を上手に描写している。

「夢のかけはし」

くれ まさかず（愛知県）

＜受賞理由＞

へびを題材とした珍しい作品だが、動物に対する感情や、怪我をした動物を助ける行動とその心情が、獣医師の父や、へび嫌いの母との間の親子の会話を通じてよく表現されている。身近な動物との関係という面でも考えさせられる。

### 【日本動物児童文学奨励賞】

「鳥たちの時間」

尾崎 潤（大阪府）

＜受賞理由＞

主人公が自分の悩みをオオワシの観察を通じて解決する物語。少年の成長、立ち直りを素直に表現しており、野鳥観察の魅力も上手く描かれている。少年時代の1ページの様な作品である。

「ミルティーがくれたコンパス」

芦沢 美樹（静岡県）

＜受賞理由＞

北極圏を舞台に、環境指標となっているホッキョクグマを題材としたスケールの大きな冒険物語。北極圏への初航海の途上、夢の中でのホッキョクグマとの生活や、主人公の心の変容をうまく描写している。

**「グッドバイ」**

**柳澤 みの里（東京都）**

＜受賞理由＞

乗馬クラブの仲間、馬との関わりの中で母親の死の悲しみを主人公が克服していく過程が描かれている。登場人物、馬のキャラクター設定がしっかりとされており、主人公の心の葛藤もうまく表現されている。

**「あの日、小箱にしまったもの」**

**みくに つぐえ（神奈川県）**

＜受賞理由＞

身近な野鳥であるスズメの扱いについて教訓的に話が進められるが、子供同志の会話がスムーズで、季節感もあり、風景がよく見える作品である。スズメという小さな野鳥の命に対する2人の少女の気持の動きが繊細に書かれ、心打つものがある。

**「ホープ - 希望の犬 -」**

**高岡 純（埼玉県）**

＜受賞理由＞

犬を飼うことの大切さ、犬が人と人をつなぐ役割等を描いており、読後、温かな気持ちにさせてくれる。登場人物、各々の思いが素直に伝わる作品である。